

＝ 3月4日 第19回介護福祉士国家試験「実技試験 速報」 ＝

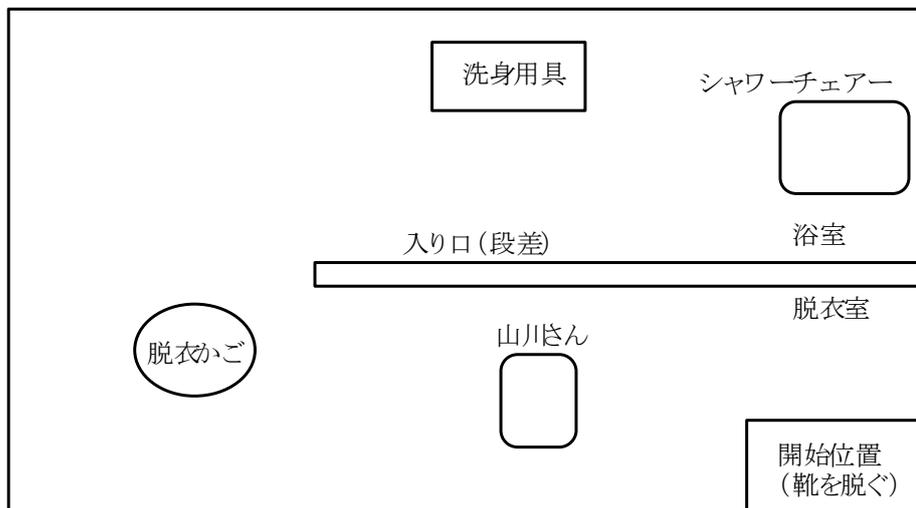
2007年3月4日 17:00 「やまだ塾」に掲載

<第19回 実技試験 課題>

～着脱・立ち上がり・歩行・入浴介助～

『山川花子さん(75歳)は左半身麻痺があり、歩行や着替えに一部介助が必要です。これから入浴する予定です。脱衣室のいすに座っている山川さんを、肌の露出に配慮しながら上衣を脱ぐ介助をしてください。(下半身はすでに脱ぎ、バスタオルを巻いています。)その後、入り口の段差を越え、浴室に移動し、シャワーチェアに腰掛けさせ、洗身用具を渡すまでの介助をしてください。(バスタオルははずす必要はありません。)山川さんが着用している黒のシャツ、スパッツ、靴下は肌とみなします。山川さんは、「はい」または「うなづく」のみです。』

(試験時間:5分)



<やまだ塾の見解>

第14回の課題が参考になる。

注意すべきポイントは、

- (1)着替え:①バスタオルを肩に掛け、肌の露出を最小限にする、②脱健着患の原則と健側の活用を行う、
- (2)いすからの立ち上がり:③浅い腰掛け、健側足を手前に引き、患側の膝を支えて前傾姿勢で立ち上がる、
- (3)片麻痺の歩行:④患側斜め後方から介助し、5cm程度の段差の前で立ち止まり、患側からまたぐ、
- (4)入浴の介助:⑤シャワーチェアに腰掛けた後、利用者が選択したスポンジかタオルを健側の手に渡す、である。

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007-2008 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

2008年1月12日追記

- 「脇の甘い問題」である。
- 試験直後に、「段差越え」はどちらからか(健側, 患側, どちらでもいい)という議論を引き起こした。試験直後には、自信を持って「健側」「患側」「どちらでもいい」を答えられた教員を筆者は知らない。むしろ、現場のワーカーからは安全を確保できていることを前提に臨機応変にどちらでもいいというのが大勢と思えた。現在では、大手出版社の解説書等で「健側」としているため、「健側から」が正しいとされているように思う。どの教科書・どのテキストに「健側からが正しい」との明確な記載や根拠があるのか筆者は知らない。また、筆記試験は「正答」を公表するのに、実技試験の「正答」を公表しないことに理由があるのだろうか。「正答」が公表されない限り、やまだ塾も含めてどの解説も「参考(見解)」でしかない。
- やまだ塾は、「段差のまたぎ順」に関して、解答速報時点から「患側から」であり、現在も変更はない。多くの市販解説書では「健側から」とされているが、「健側から」の明確な根拠を示していないと思う。仮に、「健側」であるとすれば、14回試験の杖を持てば「患側」、今回試験の介護者による介助では「健側」という何ともややこしい介助技術となる。しかし、階段の上り下りには原則がある(上りは「健側」、下りは「患側」)。やまだ塾では、脱衣所から浴室への現実の段差では、浴室が一段低くなっている構造であることから、階段を下りる手順としての「患側から」を根拠として採用した。現実的でない、単なる段差を越えるという問題の設定に不備があると考える。
- やまだ塾、「3福祉士国家試験の過去問関連(第19回-第9回)」の категорияで「脇の甘い問題」として掲載している。
- 現在のやまだ塾の見解

注意すべきポイントは、「安全の確保」と「的確なタイミングの声かけ」を前提として、

(1)はじめに:①顔を合わせて、挨拶、自己紹介、介護の目的と介護の手順を告げ、同意を得る。

(2)着替え:患側に立ち、②バスタオルを肩に掛け、肌の露出を最小限にする、③脱健着患の原則と健側の活用を行う。

(3)いすからの立ち上がり:患側に立ち、④浅い腰掛け、健側足を手前に引き、患側の膝を支えて前傾姿勢で立ち上がる。

(4)片麻痺の歩行:⑤患側斜め後方から介助し、5cm程度の段差の前で立ち止まり、介助者は段差をまたいで待ち、利用者は患側からまたぐ。

(5)入浴の介助:⑥シャワーチェアに着座し(座面に健側の手をついて着座することも想定できる)、⑦深く腰掛けた後に、利用者が選択したスポンジかタオルを健側の手に渡す。

である。

以上

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007-2008 Shunsaku Yamada. All rights reserved.